

令和8年度 第1回 野洲市地域公共交通会議 議事要旨

日 時	令和8年5月19日（火）14:00～15:25
場 所	野洲市役所本館3階 第1委員会室

○出席委員：井上会長、森安副会長、坂口委員、浅野委員、小林委員、山本真嗣委員、近藤委員、田中委員、池田委員、塚田委員、野村委員、岡本氏（中島委員代理）、喜多畑委員、清水宏孝委員、山本一起委員、井狩昭彦委員、山本善亮委員、井狩勝委員、山田委員

○欠席委員：清水稔委員、中村委員、松尾委員、糸委員、北田委員

○事務局：都市政策課 吉川課長、原田係長、中川主査、森岡主事
地域医療政策課 瓜谷課長補佐
高齢福祉課 羽山主査、山浦主査

○傍 聴：3人

○会議結果

議題

（1）令和7年度決算報告について

→承認

（2）令和7年度事業報告について

→承認

（3）令和8年度予算（案）について

→承認

（4）令和8年度事業計画（案）について

→承認

（5）令和9年度地域公共交通確保改善事業費補助金（地域間幹線系統確保維持費及び地域内フィーダー系統確保維持費）の計画認定申請について

→承認

（国への申請時、修正が必要となる際には会長と事務局が相談のうえ修正を行う。）

（6）野洲市地域公共交通計画の各施策の進捗状況について

→承認

（7）野洲市の地域公共交通を考える市民懇談会の結果概要について

→報告

（8）野洲市コミュニティバスの再編案について（再編案の現状、中央循環コース再編案の選定）

→承認

その他

・夏休み特別乗車券の販売について

- ・WESTER ポイント（チャージ専用）サービス 近江バス・湖国バス ポイント付与率の見直しについて
- ・近江鉄道にぎわいづくり DAY「ガチャフェス」の開催について

1. 開会

2. 挨拶

都市建設部長：本日は、ご多忙の中ご出席いただき感謝する。平素より、本市の公共交通の維持・発展にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、令和9年3月に開院予定の市立野洲地域医療センターに併せ、野洲市コミュニティバス「おのりやす」の再編を、民間路線バスと一体的に進めている。昨今は、乗務員の確保や物価高騰等、コミュニティバスを運行するうえで多くの課題があるが、可能な限り市内全体で最適な交通手段を提供して参りたいと考えている。本日の会議を通じて、皆様から様々なご意見を頂戴し、今後の公共交通をよりよいものにしていけるよう努めて参る。委員の皆様においては、忌憚のないご意見、ご提言をいただくようお願い申し上げます。本日は限られた時間ではあるが、有意義な会議となるようお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

会 長：いよいよ市立野洲地域医療センターが完成するということが、永原循環線が大きく変化する。滋賀県内のバス交通でここまで大きくよい方向に変わるということは、なかなか無い事例である。ぜひ、野洲市の路線から滋賀県内の皆様に向けて、バスの利便性が向上し多くの利用があることで地域がさらによくなるということが示せれば嬉しく思う。よろしく願う。

3. 議事

(1) 令和7年度決算報告について

(2) 令和7年度事業報告について

事務局：資料1、2により説明

会 長：審議に入る前に、監査委員より会計監査報告をお願いするところだが、委員交代のため事務局が代理で報告願う。

事務局：資料1に基づき監査報告

会 長：質問、意見はあるか。本議事は、承認いただけるか。

全 員：異議なしの声。

会 長：本議事は承認とする。

(3) 令和8年度予算（案）について

(4) 令和8年度事業計画（案）について

事務局：資料3、4により説明

会 長：質問、意見はあるか。

会 長：3回目以降の会議は、内容により随時開催で問題ないとする。永原循環線増便前に、ぜひ地域住民と協力して、医療が促されるような環境整備ができるとよい。今後は少なくとも野洲駅北口停留所に、時刻表に加え、市立野洲地域医療センターまでの運賃、路線図等を掲示いただくのがよいとする。バス停はサービスを宣伝するツールである。庁内でご検討いただければと思う。

事務局：検討のうえ、今後様々に実施していきたい。

会 長：他に質問、意見はあるか。本議事は、承認いただけるか。

全 員：異議なしの声。

会 長：本議事は承認とする。

(5) 令和9年度地域公共交通確保改善事業費補助金（地域間幹線系統確保維持費及び地域内フィーダー系統確保維持費）の計画認定申請について

事務局：資料5、6により説明

会 長：質問、意見はあるか。本議事は、承認いただけるか。

全 員：異議なしの声。

会 長：本議事は承認とする。

国へ申請する際に修正を要する場合には、私が事務局と協議のうえ修正し、国へ提出することについても承認いただけるか。

全 員：異議なしの声。

会 長：では、そのように進める。なお、補助いただいたからといって満額の補助ではなく、皆様の利用がなければ消えてしまうということ、ご承知おきいただければと思う。

(6) 野洲市地域公共交通計画の各施策の進捗状況について

事務局：資料7により説明

会 長：質問、意見はあるか。

会 長：目標をみると、鉄道利用者数が回復していない一方、おのりやすでは増加傾向にある。利用傾向等の情報はるか。

鉄道駅に関して、目の前に大規模事業所があるなかでなかなか利用が回復しないのは、例えば通勤や通学が減少しているからなのか、買い物に出る人が減少しているからなのか。

委 員：野洲駅に限らず、トレンドとして、定期の戻りが悪い。テレワークから出社に戻ってきているとはいえ、コロナ禍での行動の変化が影響として考えられる。

会 長：テレワークの影響は、滋賀県内でも見られるか。

委 員：テレワークと限定することはできないが、定期利用者の回復が鈍い。定期外は、琵琶湖線南部でコロナ禍前の100%超の利用数となっている。定期利用者は、コロナ禍前の水準に戻っていない。細かい調査はできていないが、そうした傾向がある。自家用車という個室空間に慣れてしまい、鉄道から離れている等、様々な事情があると推察する。

会 長：定期外は伸びているが、定期が回復していない。今回の試みである、通学定期補助、高齢者支援施策等はこの傾向からの脱却に合致しており、効果が期待される施策であると考えられる。自信をもって取組んでいただきたい。他地域では、コロナ禍を契機として公共交通から自家用車に転換し、戻らないと聞いている。テレワーク以上に、自家用車への転換という要因が強いのではないかと聞いている。鉄道利用のよさをアピールできればと思う。

事務局：おのりやすは、路線別にみると中央循環コースは横ばい、その他コースは増加傾向にある。

会 長：中央循環コースは従前より人気があり、利用もあつたため、堅調に動いている。それ以外のコースについては、本数は少ないが、生活を合わせれば利用できる人が増えたというイメージである。今回の再編案も、現行の利用実態を踏まえて作成されている。地元には、この旨を丁寧に説明し、ご理解いただければと思う。

このほか、定期的にゴイッショやすのご報告をいただきたい。この取組みのよいところは、公共交通で外出できない人への福祉的支援である。他地域でよく見られるのは、福祉と通

常の移動を区別せず、全員が便利なものを目指した結果、誰にとっても使いづらいものになってしまう事例である。そうではなく、公共交通が利用できる人は公共交通、公共交通で移動しにくい人はゴイッショやすという棲み分けができていよう。利用実態等、定期的にご報告いただけると幸いである。

事務局：次回以降、検討のうえご報告させていただく。

会長：他に質問、意見はあるか。本議事は、承認いただけるか。

全員：異議なしの声。

会長：本議事は承認とする。

(7) 野洲市の地域公共交通を考える市民懇談会の結果概要について

事務局：資料8により説明

会長：質問、意見はあるか。

会長：若い方々の参加が目立ち、将来の地域公共交通の利用が期待された。市民懇談会の会場は、公共交通でのアクセスがしにくい場所であったが、土曜日の日中でも若い世代の参加が見られたのは好ましい。

皆、基本的に自家用車を持っており、こうした人がバスを利用することは難しい。自家用車の方がバスより楽で便利である。一方で、自家用車より早い手段として、鉄道が選択される可能性がある。遠方への移動であれば、JRの方が早く、便数も多い。渋滞や駐車場の確保を考えると、結果的に鉄道が早いからである。目的地がどのくらい渋滞しているか等、情報発信も重要である。

他に質問、意見はあるか。

全員：(特になし)

会長：本件は報告事項であるため、次の議事に移る。

(8) 野洲市コミュニティバスの再編案について（再編案の現状、中央循環コース再編案の選定）

事務局：資料9、10により説明

会長：質問、意見はあるか。

会長：地域住民にご理解いただけるよう、丁寧に進めていただき感謝する。再編案への意見として最も想定されるのは、野洲駅南口と北口間での乗継ぎ、特にアル・プラザからの帰りが荷物が多くて大変という声である。腰を下ろして待つ環境があるということや、少々手間が増えるがその分便数が確保されるということを丁寧に説明いただきたい。また、停留所環境の改善として、アル・プラザ店内入口付近のベンチでバスを待っている方が見受けられたことから、可能であればそこでバスの接近情報が案内できればと考える。

今回、中央循環コースは案が3つある。事務局の説明を聞いたところ、便数も増え、他のコースとも上手く調整できていることから、案3を進めたいということ、理解できる。

野洲市では、便数が抑えられているなか、少しでも便数を確保しようとする、乗換えの話等を検討する必要性が生じる。特に、市立野洲地域医療センターへのアクセスは永原循環線とし、全てのバスが接続しているというアピールをしていただき、永原循環線を皆で育てていければ、乗車機会は増加する。乗換えなしは便利であるものの、そればかりを目指す、便数が減少する。いずれを採るかであるが、今回は乗換えは発生するが便数を確保するという方を選択された。運行開始後、改善していけるのがバス交通のよいところである。今回は、まずはこの案で進めていただければよいと考える。

他に質問、意見はあるか。

委員：野洲駅について伺う。ベビーカー利用者にとって、野洲駅南口から北口間の移動は、エレベーターが古く利用しづらい。改善されればと思う。

事務局：野洲駅のエレベーターについては、都市政策課で管理している。北口は最近新設したが、駅付近の2か所は老朽化している。あと数年で耐用年数を迎えることから、その際には更新ができると見込まれる。もう少しお待ちいただきたい。

会長：利用者の声をこの場でいただけることは、ありがたい。
他に質問、意見はあるか。本議事は、承認いただけるか。

全員：異議なしの声。

会長：本議事は承認とする。

4. その他

○夏休み特別乗車券の販売について

○WESTERポイント(チャージ専用)サービス 近江バス・湖国バス ポイント付与率の見直しについて

○近江鉄道にぎわいづくり DAY「ガチャフェス」の開催について

委員：資料により説明

会長：お得な乗車券は、ぜひ市民へアピールいただきたい。子ども連れのバス割引は、なかなか無い施策である。関東では、小田急電鉄、西武鉄道において子どもは50円で利用することができる。近畿日本鉄道は、IC利用の小人運賃の半額がポイント還元され、大人の4分の1で利用することができる。次の課題としては、中学生になると小人運賃から大人運賃へ移行することから運賃抵抗が出てくるため、その点については自治体からの支援等が検討できればよいと考える。

5. 閉会

事務局：慎重な審議に感謝する。本日の会議を終了する。

以上